



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
MAIL mail@hon-ai.org  
〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378  
編集責任 広 報 部

# 春季大祭厳かに

## 新型コロナウイルス感染対策も

大教会の春季大祭は1月13日、晴天のご守護のもと厳かに執行された。祭典終了後には、大教会世話人・松村義司本部長による神殿講話が行われた。

大教会の春季大祭は1月13日に執行された。部内教会長をはじめ、本愛につながるようばく・信者が参拝する中、神殿講話には大教会世話人・松村義司本部長が登壇された。

全国的に厳しい寒さとなったこの日、参集したようばく・信者には、神殿前でマスクや消毒液が用意され、新型コロナウイルスの感染防止も配慮した上での

参拝が促された。午前10時、神前に参進した大教会長は、祭文の中で六代会長就任奉告祭に向けた決意を述べ、続いて、座りづとめと十二下りのてをどりが勤められた。

その後、松村義司先生が神殿講話に立たれた。(次号に要旨)

続いて挨拶に立った大教会長は、3月に控えた会長交代を踏まえ、自身が会長

### 六代会長就任奉告祭 6月20日執行

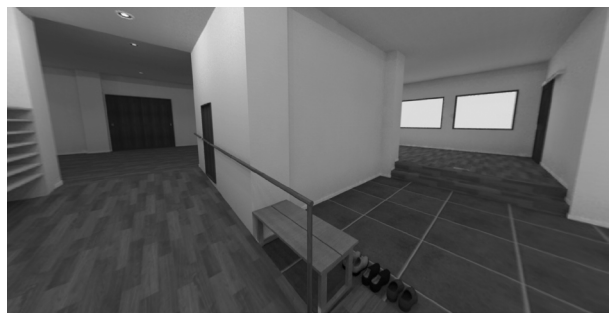
活動目標  
喜びの旬  
おたすけの日々  
楽しみの道

として務めた28年間で振り返り、特に印象深く感じることを話した。その中で「かつては『布教の本愛』と言われた本愛の布教線を私の代で伸ばすことはかな

### 改修普請 始まる 就任奉告祭に向け

大教会の神殿1階の改修普請に伴う工事が1月20日に着工した。

この普請は六代会長就任奉告祭に向けたもの。1階のトイレおよび玄関、給湯室、託児室などが改修される。工事は5月頃完了の予定。また、神殿に続く階段の内壁塗装工事も2月中旬ごろまで続けられる。



神殿玄関内部の完成予想図。スロープが設置される予定

わなかった。その点は心残りではあるが、次の会長の腕の見せ所だとも思う」と述べ、最後に「長い間、皆さま方に支えていただき、本当にありがとうございます。ありがとうございました」と感謝を述べた。

◇

また、これに先立つ1日には、立教184年の元旦祭が大教会長祭主のもと、午前5時から執り行われた。

入社祭	1日 午前10時	教会長連絡会は中止
よふき会例会	2日 午前10時	
女子青年例会	7日 午前9時50分	
月次祭	13日 午前10時	
青年会例会	13日 午前10時	
布教実修所	14日 午前10時	
むつみ会例会	16日 午前10時	
こはる会例会	18日 午前10時	
婦人会例会	20日 午前10時	
本部月次祭	26日 午前9時	

2月のこよみ

教理随想

言わん言えんの理を探る



生鮮野菜の卸売業をしているAさんという男性がいます。以前、組合の責任ある立場について時、何かにつけて話し合いがうまく進まず困ったことがありました。そんな時、親友のBさんが熱心な天理教信者であることを思い出し、「天理教の神様にお願いをもらえないか」と相談を持ちかけました。

そこでBさんが自分の所属する教会の会長さんに話をする、早速教会でお願いいつとめがつとめられることになり、Bさんに連れられてAさんは初めて教会に参拝。新鮮な野菜をお供えして真剣に祈りました。その折に会長さんから「人を責めるのではなく、まず自分の心を反省し、親神様にもたれてお通りください」という意味のおさとしがあり、Aさんもその言葉を真剣に受け止めました。

後日、その組合では話し合いが不思議なほど円満に進み、Aさんは翌月の月次祭にたくさん野菜を持って御礼参拝にいられたという事です。言われるままに自らを反省し、親神様にもたれて祈ったAさんの素直さと、教会長の誠実に現れた不思議なご守護ですが、ここで見落としてならないのは、お道のようぼくであるBさんの存在です。おそらくAさんはBさんの人柄をたいへん信頼していたのでしよう。だから困った時、すぐにBさんに相談しようということになった。

【第74回】  
お道の匂いを周囲へ広め  
信仰の道につなぐ働きを

一方のBさんは、職場や地域で教えに基づく生き方を実践し、いつもお道の「匂い」、すなわち、つい近づきたくなるような雰囲気や発散させていたに違いありません。その「匂い」にAさんは引き寄せられ、さらに教会長とBさんの誠実さによって不思議なご守護につなぐたのであります。

とをもちもみちがのふてハでるにでられん (二一三) とあります。親神様は、たすかる道へ人間を導いてやりたいといつも思っておられますが、ようぼくがその道を付ける役目を果たしてくれなくては働きたくても働けない、という意味です。そのために引き寄せられたのが私たちようぼくですから、日々を教え通りに生きて、Aさんのような困っている人を、親神様のご守護につないでいく自覚と努力が大切であります。

天理教の信仰は好きでも「にをいがけ」は苦手、という人は多いかもしれせん。しかし人前で教えを説いたりしなくても布教はできます。というより、自分が教えに基づく生き方を心がけていけば、何もなくても自然にお道の「匂い」が伝わっていく。これが本当の「にをいがけ」です。

戸別訪問などで積極的に教えを伝えることも大切ですが、それ以前にまず自分が教えをまっすぐに実行しているかどうかが肝心で、布教はそこから始まるということもいでしょう。

教祖の御心は、人間をたすけたい一条の親心です。だから天理教の信仰をするというのは、その御心を常に自分の心に映して生きていくこと。言い換えれば、人をたすける心になって、人だすけを実行することが教祖に近づく「心の成人」であり、天理教信者にとつて最高の価値なのです。

人をたすけるといっても大げさに考える必要はありません。まず夫は妻を、妻は夫をたすける心になり、家族に優しく接していく。こんな身近で日常的に実行できる事柄を見出しながら、心を常に外へ向けて「おたすけの日々」を積み重ねていきましよう。

■本当の「にをいがけ」

おふでさきに、はやくとをもてでよふ



